

十二神将（木造十二神将立像） 国宝

これらの精緻で非常に写実的な像は、檜の寄木造りで、1207年頃に制作された。医術と癒しの仏陀である薬師如来の家来である十二神将の像である。十二神将は仏教の守護神であり、信者を病気や害悪から守る役割を負っている。その鎧や武器、そしてどう猛な顔の表情などは、仏敵を威嚇すること、そして衆生が不健全な行いをしないように導くことを目的としている。12人のグループ全体で、薬師如来の十二の大願を象徴しており、これはすなわち彼らが仏陀自身の怒りの発散であるということを意味する。それぞれの神将の頭部には、それぞれ十二支の動物が飾られている。

仏師が誰なのかはわかっていないが、定慶の工房による作である可能性が高い。12の像はそれぞれ少しずつスタイルや技法の面で違いがあるので、それぞれ別々の仏師が製作した可能性がある。生き生きとした、ドラマチックな動きの感覚により、この一群の作品は鎌倉時代（1185～1333年）の仏教彫刻の優れた一例となっている。